

琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件 沖縄関係

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-01-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43235

テ
又

外務省北米課

北米局長

政経情報 40 7月 事務

北米課長

総務部

政経情報

1 前報沖の対米一般のムード

5月19日の佐藤首相来沖を前に 現地では日本航三
若の協力に 対米関係改善の体制をととのけています。せつかく

沖縄を2次沖からには 対米行動がスムーズにすすむよう
金を期する構えでとらえられています。

しかしながら、その反面、佐藤首相一行の来沖について、
「月丸の旗」歓迎するばかりでは 住民の気持は通じない。

行きの形に 戦後20年 皇民待遇配下のふたれい及 不平不満
を吐露し作られる「なすな。」とある 一種のあせりと

いらぬともいえる気分が ウツホリとしていることは かくれ
ない事実のようだ。

佐藤首相自ら 沖縄へ来るには 対米相対の意義と
目的とをわけていなければならない。とある反面、 諸般の情勢

から、来沖を概して現在の沖縄の地位が急転直下
好転するとは道しと推定していい。

せいせい、援助増加が期待できるくらいにものなるとい
うこと、いよいよ 現状固定化につながる 偽装では

ないかとの警戒ムードが強く流れている。
とくに知識階級は 佐藤首相が 首相に任じた直後、

沖縄問題について 池田内閣の弱腰を批判し、自分
なりの積極的に対処を、旨の発言をしており、

これが 首相就任と同時に 何ら進展を見せていない
ことを 告知している。

残念なのは、今のところ、現地新聞紙の論調は いま
も 歓迎のやまがたはなるとしつつも、後援の

スケジュールの確化がなされなければ 何の役にも
たないとの調子に終始しており、相対的な

感ではある。 某相は
先に来沖して ~~その~~ まるく自主性の高い

動きを、某側のお世直しとばかり行動し、一般住民との

接触をしない。飛行場から基地へ、基地から飛行場へと
二回返りを1回に押し付け、きわめて悪い事例を作る。

たゞ今では拒絶が絶えない。

今回は、この点、自衛隊のスケジュールが組まれており、

一般市民との接触も相当に予定されているので、この点
では好成績がえられる。

2 治安、整備

(今下月合計、組合費約27,000)

以上の点を踏まえ、一般のムードを背景に、労資協は下記の
次の対応方針を定めている。

(1) 19日 抗議、請願、市民大会を開き、宿舎にテモを
打出す。(委員会が、形番を授け、テモコースは松尾一

(が予定されている。)

国際通一安里一ID一平急不アハ)

(2) 民主闘争との合衆の機会が与えられる。そこで

抗議文を首相に手渡す。1例、これが認められれば
れば宿舎にテモを打って、抗議文を手渡す。

(3) 空港へも阻止闘争の結果を得る(可能性のある。)

(もっとも、出た後目された復情協は、最終的な態度を
打ちきりしている。労資協は復情協に加盟(21日)

が、^{のいくつか}今下月組合費~~は~~復情協に加盟している。復情
協の中心を打す教職員会は、請願を基本態度とする方針
(前述に小中連と動員は日丸で歓迎されることを認めたり)

を打ち出しており、わりあいに穏便である。

最終的な決定は本工出後の屋良教職員会との協議後とする。

(参考) 過去の民主勢力動員数

○ S 39. 10. 29 指名選合理也 (主催復情協)

約 2,000

○ S " " 31 " (")

約 2,000

○ S 40. 4. 28 復帰デー (")
市民大会

約 10,000

(金額 217 65/5000)

○ S 40. 5. 1 May day (労資協)

約 5000

テモ打 320

(金額 217 7,000 72,000)

340 7. 24 実務型合併反対 約 3000

(弊官知号数) 形番2は 最高 800~1500 程度
(金額等) 約 1500)

宮古. 八重山2は 室号 52と54 店様 50E
入札 最高 80

5 県庁を千島等視. 県庁庁舎等部の特摘点

○ 県庁 学校に不馴れ作風の 実験事業に於いて臨機応

変の措置がとれるよう 教養の必要があり. 実際面での
手立て等と協議すること

○ 特種病者 現場から隔離すること

○ 事業採算を十分に検討すること

(宮古の製糖工場合併反対の事件は. 経緯有初事沖
に於ける感懐とは 次を要するかと. 準備実施. 情勢分析

にやや感懐にさせらるゝある。)

極秘

反統情報 (204)

北米局長

復帰協会長の談話等

事務局

北米課長

復帰協会26回執行委員会は、1965年8月2日午後6時から那覇市美栄橋町沖縄教育会館で開催され、その状況については、琉球新報、沖縄タイムス紙に報道されたところであるが、当事者の意向を正確に知る目地から1965年8月5日午後4時30分頃沖縄教育会館を訪れ、復帰協会長善屋武真栄に面会し、同執行委員会の決定事項を述べた。次のとおりであった。

記

1. 執行委員会の決定事項

(1) 空港に於ける請願行動

佐藤首相が来島する8月19日には空港に赴き請願行動を行うことを決定している。その方法については、次の執行委員会で決定するつもりだが、来沖時刻が午前中にあるので幹部だけの動員に限り可能性が強い。請願方法は空港デッキの手すりに「沖縄を早く抱きとって欲しい」という意味の文句を書き、横断幕を取りつけ首相の目につくよう請願行動をとりたいたいと思っている。しかし当日は混雑もするし中に入れるかどうか。

(2) 県民大会及びデモ行進について

県民大会は8月19日晩に行うが、これは最大

総 理 府

動員を行う。場所も他の場所では収容できないので、那覇高校とし、デモコースは那覇高校～松尾三叉路～国際大通り～守里～泊高橋～1号線～東急ホテルとすることを決定した。デモは請願デモで日の丸は持たずプラカードを掲げ秩序と統制あるデモを行なう。

(沿道などで混乱状態が起きないかの質問に対し)

デモは、各加盟団体の責任者によるその団体の行動を責任もって統制して行うよう言っており、問題が生じればその団体組織の責任であることを強く申し入れてある。

(3) 人民党 沖労連グループの動向について

(人民党は佐藤首相の来島を反対(阻止の動きがあるが)の質問に対し) 26回執行委員会は全沖労連の新城均造(委員長)が出席し、10項目位種々のことを書いてあったので、私から復帰協会は請願行動をするので抗議行動はしませんが、貴方達はどうかと聞いたら、最終的には復帰協会の決定に従うと言っており、その語ももてある。その前、前回の宣伝活動方法をきいたら「どうも各地に配り佐藤首相の訪沖を知らせる」と言うことであつたので、それはよからうと答えてある。私は新城君に組織の決定に従って行動しなさいと問題が起ると困ると念を押している。

総 理 府

(4) 教職員会の動向 (日の丸を歓迎の向題)

この向題では私も向にけされて困っている。つり致場
の学校側が生徒をして日の丸を掲げて歓迎させる
動きがあり、復帰協としては日の丸を掲げない行動を
決めているので、復帰協に加盟している教職員会が日
の丸を掲揚することは組織の決定に逆行することにな
る。

しかし、私は皆にけつりしている。子ども(学校)
に日の丸を掲げるとはいいないこと。子どもは子ども
の考えがあるから、自然にさせる。片手でプラ
カードを掲げ、片手で日の丸を掲げると子どもらに意
思表示をさせればよい。もし、日の丸を掲げるとい
ふことは、荒木文部大臣を日の丸で歓迎させているのだから
教育上筋が通らなくなる。だから、この向題は自然に子
どもらにさせる方法にしている。

また、学校の責任は教育長や文教科にあるので横
あいから、種々いふことはないと思う。

しかし、復帰協の場合はそうではない。日の丸を歓迎
されれば現状に満足して歓迎にしているという風を受取
られる。やはり20年も祖国から離れている時に一國の
教育の政治責任者が来られるので、早く祖国
に抱きとって欲しい。という意思表示が先になさねば

べきで、その意味で日の丸を掲げないことにした。そして
プラカードで意思表示をすべきことにした。

(5) その他

イ (復帰協の今回の首相来島に対しては請願行動を
とるのが抗議行動をとるのかの意向に對し)

これは首相率直の受けとり方と思う。20年も祖国か
ら離れているので、20年何処にいたか」と

子ども(沖縄)としては真先に出てくる言葉である。そ
の意思表示が当然出てくるが、これを「何処にいたか」と
抗議に移す者もあろうし、請願を行なうことにした。復
帰協としては請願行動をし、正々堂々と首相に
復帰の意思表示をすべきにしている。(これは、24.
25. 26の執行委員会を確認済みであると強調して
いた。)

ロ (アイク大統領訪沖時のような混乱事態発生が予想
されないかの意向に對し)

その約事とはないと考え。アイクの場合はいわ
ばよき者という感情があったが、佐藤首相の場合は

自分たちの国の政治最高責任者という気持があるの
あつた時のような事態は起さないと考える。

ハ (次の報行委員会は何日かの意向に付し)

昨日(8月4日)予定していた台風で開けず今日は
その後始末でできない。今準備中だが多分、8月7日
前後は8日の午前中に開催予定である。

現在 事務局を代行の排原用行君が後輩(2人)、
官公労の平良清年君が代行しているが官公労が多
忙で、下か下かスムーズに復帰後事務局がいない
状況である。

最後に、同会長は、「とにかく秩序と統制力ある行動
を以て、つまずき問題を起さぬようにお互いに気を付け
て行きます。」と語っていた。

臨時中央準備委員の情報

1 空港への活動人員数は多く見積って6300。19日夕方
の集金は17000~10000の参加が予想される。
(4.21集金の際 集金は18000、予金は11000が参加して
いる。)

2



これは、準備には専任を付してある。

身辺に危険を及ぼすような行動には絶対に出ない
と思う。

3 事務局は金沖芳産の事務所「在野工連準備委員会
統一情報活動実行委員会」(美奈橋町1-31)を

ついで活動を始めた。 (首相官邸阻止の許可は得
た) 入力は [Redacted] 以外判明は
していない。 その範囲は 空港での阻止行動の中心と見
られる。

北米局長
参事官

北米課長

総南連第2086号

昭和40年8月11日

総理府特別地域連絡局長 殿

那覇日本政府南方連絡事務所長

政経情報(その3)

佐藤首相一行来沖に対する県民大会等について

1 佐藤首相一行に対する陳情ないし抗議

現在明らかに訪問反対を打出しているのは、人民党と同党の勢力の強い全沖労連、沖縄民青同などである。反対の理由とするところは、「訪問の目的が現状固定化と沖縄民主党へのテコ入れだからだ。」としている。

しかし、これらの団体もそれ自体では多数の動員が不可能なので復帰協主催の19日の県民大会への参加を肯定しており、その傘下となつて行動するものと思われる。したがつて、19日の県民大会とそれに続くデモが最大のヤマで、それ以外には空港到着時の氣勢ぐらいしか警戒するものは予想されない。

2 佐藤総理訪沖に対する祖国復帰要求県民大会

県民大会のスケジュールは次のとおりである。

(8/7復帰協執行委員会での案)

佐藤総理訪沖に対する祖国復帰要求県民大会

日 程

- 1 司会 復帰協 大城 栄 徳
副会長 あいさつ復帰協 大田 守 昭
- 2 「沖縄をかえせ」大合唱指揮
大島 修
- 3 議長団進出 (1) 県労協
(2) 婦 連
(3) 教職員会
- 4 議長あいさつ
- 5 経過報告 事務局長代行
- 6 会長あいさつ 復帰協会長 喜屋武 真 栄
- 7 意見発表(10分) (1) 沖縄社会大衆党
(2) 社会党沖縄県本部
(3) 沖縄人民党
(4) 市町村会
- 8 スローガン採択
- 9 決議文採択

10 閉会あいさつ 復興協副会長 大田 守 昭

11 デモ行進 那覇高校→松尾→国際大通り→安里→嶽元寺→東急ホテル

※ 統制委員長の注意

各団体の代表者が統制委員になる。

統制委員長は教職員会の福地曠昭研究部長があたる。

県民大会準備事項

1 日時 1965年8月19日(木)午後5時半

2 場所 那覇高校

3 (イ) スローガン 檄幕

(ロ) 決議文

4 会場準備

舞台、マイク、電灯、先導車

同大会でのスローガンは、次のとおり。

(1) 日本政府は、米国に対してただちに平和条約第3条を破キし沖縄返還を実現せよ。

(2) 日本政府は、主権平等と民族自決にもとる米国の沖縄支配を国連に提訴し沖縄返還を実現せよ。

(3) 日本政府は沖縄県に日本国憲法を適用し県民の参政権を復活させよ。

(4) 日本政府は県民の完全自治と知事公選をただちに実現させよ

(5) 日本政府は、沖縄県と本土の往来の自由をただちに実現させよ。

(6) 日本政府は、安保条約を破キしアメリカのベトナム戦争を中止させよ。

決議文は以上のスローガンの内容を盛り込む。この決議文を東急ホテルにデモつて行つて首相に手渡す。(注) (官房長官が受取る予定とのことであるが、それはきわめてよいことだと思われる。)

3 警備上の重点

(1) 空港へは約300名くらいが集結し、赤旗、プラカードなどで氣勢を上げるものと思われる。これを排除してスムーズに車両の通過をはかる必要があるが、当日空港周辺にはほぼ同数の警察官が警戒にあたる。

(2) 県民大会は、約1万人を集めて予想どおり進行すると思われるが、デモに移つた後、人民党系の500名くらいが若干ハネあがるかも知れない。デモのコースおよび東急ホテルの解散地点での警備が重視される。デモコースとホテル周辺には1大隊があたる。

解散をすみやかにさせるためにも、首相の代理者において抗議文を受取ることはぜひ必要だと思われる。デモは全般的に統制あるものとなると思われるので、人民党系もあまりハネ上る

と浮き上るおそれがあり、その点で過激な行動には出られないと思われる。

(3) 精神病者対策

具体的な施策は現在のところなされていない。

各署では事前に調査をとげ、粗暴性のある者についてはその期間保護留置するか、家族への監督強化を指示する予定。現在直訴や危害に及ぶような精神病者の心配はないと思われる。

(4) その他

名護、宮古、八重山については問題とすべきものはない。

帰省学生、球大生の動きもピラハリ程度のものしかない。

20日、21日にはいかなる集会、デモも予定されていない。

4. 首相来沖に際して望まれること。

(1) よく勉強してきてもらいたい。

佐藤首相が沖縄へ来ても施政権返還が実現すると考えている者はほとんどいない。しかし、戦後20年ぶりに首相が沖縄へ来られるようになったことは、積み重ねられた漸進の後かなえられたことで、その点は本土との一体化として嬉しい。来てもらうからには、よく沖縄事情に精通してトンチンカンなことをいわないようにしてもらいたい。「沖縄では日本語の新聞がでているのか」(鈴木茂三郎) 「平常も日本語で話してるの」(片山哲) 「U2機など沖縄へもつてゆけばよい」(浅沼稲

次郎)等の発言はしつこく記憶されており、佐藤首相についても同様のヤユがある。(浜西健次郎「沖縄への報告」162ページ)よく勉強して打てばひびく応答をしてもらいたい。

(2) 明確な反応を示してもらいたい。

沖縄での陳情等については、すみやかに検討の上、実現できるものには明確に反応を示して誠意を見せてもらいたい。大名の物見遊山であつた、という印象を与えることが今後もつとも大きなマイナスになろうと恐れる。

(追記) 8月10日那覇に対して布令第132号「禁止される又は許可を必要とする示威行進及び集団行列並びに罰則」に基づく集会とデモの許可申請が復帰協からなされた。それによれば参加人員は5000人の見込みとなつている。過去において、申請数を上まわつたことはなく、たいてい3分の1ないし4分の1にとどまつている。

佐藤首相訪沖についての治安情勢

(8月7日現在)

団体名	情 勢
社 大 党	<p>教育関係費を含めた財政援助が実現するであろうことは喜ぶべき事であるが、これによつて全住民の懸念である祖国復帰が、目隠しされる結果になることには反対である。したがつて、手放しの無条件歓迎ではなく、20年間異民族に支配されている沖縄の実情を、十分みてもらい、祖国復帰問題等訴えるべき点を強く訴えたいとの態度である。行動面では、復帰協の方針にしたがつて行動する。</p> <p>なお、8月10日議員総会が開かれるが、上記態度が確認決定される見込みである。</p>
社 会 党	<p>日本の首相の訪沖は、アイゼンハワー米大統領訪沖の場合とは本質的に違つるので阻止、反対はしない。しかしながら、首相の訪沖は、国会での社会党の突き上げで実現したものであり、又、施政権返還を目的としないので、施政権返還と軍事基地撤去問題を抗議する。行動面では、復帰協の方針に従がつて行動するが、党独自にボスターやチャリンによつて党の態度を県民にアピールする。</p>
人 民 党	<p>7月12日の党中央常任委員会で、佐藤首相の訪沖目的は、</p> <p style="text-align: center;">米国の軍事基地強化と属領支配強化</p> <p>のためであるので、訪沖に反対し、抗議の斗いを全県下へくりひろげよう。と声明し、その後2、3の集会を利用して同様趣旨の演説をし、党の態度を公表している。</p> <p>しかしながら、そのための活動は殆んど行なわれず、低調である。</p> <p>行動面では、復帰協の方針に従つて行動するが、社会党同様、ボスターやチャリン、機関紙によつて党の態度を県民にアピールする。</p> <p>現在、復帰協執行委員会で、事務局作成の「佐藤首相沖縄訪問対策要綱」に、人民党は7.12声明(党常任委員)の趣旨を取り入れるよう主張しているが、党及び同論団体(民青)のみで、全く孤立し、最終的にけ党の主張は排斥される見込みである。</p>
教 職 員 会	<p>教育関係費の援助を折^衝中で、これが実現の見込みであり、又首相が訪沖して実情をみてもらいたいというのは、教職員の前々からの要請でもあるので、今度の訪沖は反対ではないが、祖国復帰の意思表示は強く行なうとの態度である。</p> <p>行動面では、復帰協の方針に従うが、当日は沿道で歓迎する生徒児童には、首相を迎えるのに^丸の丸を掲げるのは自明の理であるので、日の丸の小旗を持たせる反面、復帰の意思を子供なりに表^露したプラカードも持たせる。なおコサおよび北部の教職員会は歓迎の意</p>

向が強い。

首相防沖には反対しないとの基本方針を決定、精励した後
8月7日の執行委員会では、

- 1 戦後20年も米国の支配下に放置した責任を追求し、抗議する。
- 2 首相防米の際に、沖縄返還問題で県民の切実な要求を裏切つたことに抗議する。
- 3 県民の要求は単なる経済援助ではなく、即時復帰であるので、強く訴え、復帰スケジュールを明示するよう要求する。

4 ベトナム紛争に、沖縄がまきこまれる不安を訴え、これの平和的解決を訴える。
との基本態度を盛り込んだ「佐藤首相沖縄訪問対策要綱」を討議したが、人民党、民青が、人民党の主張（上記7. 12声明）を盛り込むよう主張したため結論の出ないままに次回に持越している。

しかしながら、最終的には、人民党の主張は非斥され、事務局長の対策要綱が決定される見込みである。なお次回執行委員会は8月10日の予定。

行動面としては、当日県民大会とデモをする事の大綱を決定しているので、具体的な点は、次回以降の執行委員会で決定され、まだ動員指令も出されていない。

学 生 団 体

琉大学生会は、会長が鹿児島旅行中であり、又夏休みのために、組織的動きはない。又、沖大、国際大も組織だつた動きはない。

しかしながら、統一帰省活動実行委員会が人民党の影響下であり、人民党と同様の態度で、独自の資金、宣伝活動を行ない、8月15日那覇高校で、瀬長亀次郎等を講師とする講演会名目の集会を催す予定である。

具体的な行動計画はまだ決定されていないが、5大学の民青グループとともに最も注意を要するグループである。

1 歓迎準備会

8月7日、政府、民主党の提唱で、経済、教育、福祉、市町村会、報道関係代表28名が出席して、首相歓迎準備会の打合せ会が行なわれたが、多数意見は、

無条件歓迎ではなく、実情をよくみてもらつた上で、訴えるべき点は強く要請、請願をした。

そのため、**「歓迎」**の名称は、現状を肯定することになり、無条件歓迎となるので他の名称を使うべきである。

となり、組織の役員（正副会長）を決定した上で、

他

<p>8月15日、さらに拡大準備会を催すことになった。</p> <p>2 全珠小、中高校長協会。</p> <p>8月7日協議会を催して、</p> <p>首相の訪沖は、新年前からの要請であり、実情を直接見聞してもらい教育関係援助を訴えたい。</p> <p>との基本態度で、当日は、児童、生徒、父兄を動員して、日の丸で鼓笛隊で歓迎することを決定している。</p>	<p>警 備 上 の 問 題 点</p> <p>1 当日は、空港ロビーおよび沿道で、プラカードや標旗による復帰の意思表示や「沖縄を返せ」の合囀により氣勢をあげる程度で、全般的には秩序ある行動がとられると思われるが、</p> <p>復帰島の統制力にも限界があるので、統一帰省活動実行委員会を中心とする学生団体が混乱の発火点になることに警戒する必要がある。</p> <p>2 当日宿舎まで贈呈デモを行ないデモ終了後、大会決議文の手交の際に、首相一行不在のため手交出来ない場合は、人民党に乗せられて混乱することが予想される。</p> <p>なお復帰協執行部として、復国復帰県民大会の決議文をデモ参加者の統制を保ち、人民党の暴動を封じるために、当日デモ終了後直ちに、首相又は代理者に手交して、解散させたい意向である。</p>
---	--

外務省へ

北米局長

政経情報 (No. 6) 40.8.23 参事官

北米課長

1 国民大会の参加人員 総計 5,200人

2 テレの参加人員
形類を扶に出答の時 総 5,200人

このうち、団体別で確認されているものは次のとおり。



(いずれも参考資料とする。)